

サンクトペテルブルグのピアニスト、ミロスラフ・クルティシェフは東京でチャイコフスキーを演奏する

3月13日(日) サンクトペテルブルグの音楽センターと日本音楽会は東京で「地理の伝統」というプロジェクトのコンサートを主催する。東京芸術劇場の舞台上で東京交響楽団と一緒に2007年チャイコフスキー国際コンクールの優秀者、ミロスラフ・クルティシェフが演奏をする。指揮者は大友直人である。

ミロスラフ・クルティシェフは去年、作曲から175周年がたったピアノ協奏曲第1番の演奏をする。

ピアノ協奏曲第1番はニコライ・ルビンシテインへ献呈し1875年にチャイコフスキーにより作曲された。ルビンシテインの厳しい非難を受けたにもかかわらず、作品として大成功となり、高い評価を得られた。その後、チャイコフスキーがアメリカのボストン市で初演した著名なドイツ人ピアニストハンス・フォン・ビューローへ協奏曲を献呈された。その次に、作品はモスクワとサンクトペテルブルグでも初演された。サンクトペテルブルグではロシアのピアニスト、グスタフ・クロッス、モスクワでは曲を再評価したニコライ・ルビンシテインの指揮によりピアニストのセルゲイ・テネエフが演奏をした。

最初の勢いのある和音はこの協奏曲の特徴である。前半の活気のある爽やかな旋律は明るく、楽しい雰囲気をつくりだし、後半のおとなしいメロディーによって落ち着く。終曲はお祭りの雰囲気を繰り返し豊かなロシア・ウクライナの伝統的な曲調も聴こえる。

ミロスラフ・クルティシェフ(30歳)。レニングラード生まれ、サンクトペテルブルク音楽院(ゾラ・ツケルクラス)を卒業した。チャイコフスキー国際コンクール(モスクワ、2007年)、モンテカルロ国際ピアノコンクール(モナコ、2012)の受賞者である。2006年から音楽センターのプログラムの参加者である。

東京芸術劇場

開演 14:00

チケット:1400~3800円

住所:豊島区西池袋1-8-1

電話番号:+81-3-5391-2111

「伝統の地理」は2014-2016に日本領事館、在サンクトペテルブルク日本国総領事山村嘉宏氏と日本音楽会の後援のもとに若者の音楽者の演奏の交流プロジェクトである。

サンクトペテルブルグ音楽センターはモイカ川112のアレクセイ・ロマノフ宮殿にある若い音楽者を国際コンクールの参加の準備のために2006年にされた。

技術監督は有名なチェロ奏者、ロシア連邦人民芸術家である、ロルズーギン・セルゲイ博士である。2015・2016期節にセンターは10周年を記念する。

公式サイト www.spdm.ru